

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3142471号
(U3142471)

(45) 発行日 平成20年6月12日 (2008. 6. 12)

(24) 登録日 平成20年5月21日 (2008. 5. 21)

(51) Int. Cl.

B 6 5 D 5/66 (2006.01)

F 1

B 6 5 D 5/66 3 O 1 G

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 実願2008-2073 (U2008-2073)
(22) 出願日 平成20年4月4日 (2008. 4. 4)(73) 実用新案権者 391036220
カルトンアイ株式会社
兵庫県神戸市長田区西尻池町5丁目3番3号
(74) 代理人 100086346
弁理士 鮫島 武信
(72) 考案者 松原 琢司
兵庫県神戸市長田区西尻池町5丁目3番3号
号カルトンアイ株式会社内

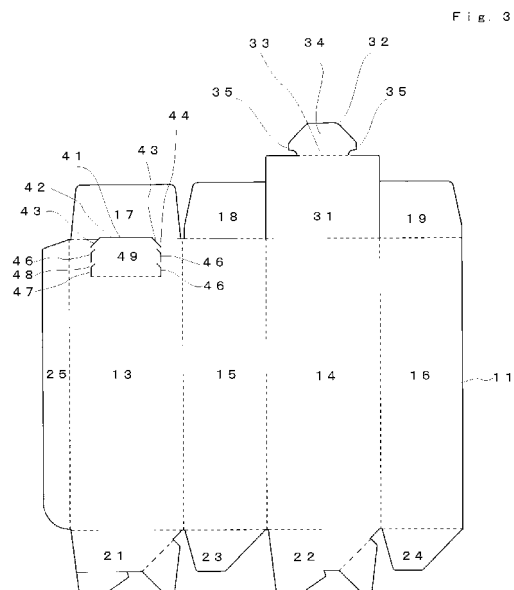
(54) 【考案の名称】再封鎖不能なカートン

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 蓋と本体との間にシールを貼り付けなくとも、カートンだけで再封鎖の不可能な構造のカートンを提供する。

【解決手段】 蓋部31先端の差し込み片32に、首部33と、頭部34とを設ける。頭部34には左右方向に突出するフック35が形成されている。この差し込み片32が挿入されるスリット41は、主スリット42と補助スリット43とを備える。補助スリット43につながるように弱め線46が設けられる。弱め線46の破断に要する力はフック35が抜ける力よりも小さく設定され、この弱め線46が破断されなければ、差し込み片32がスリット43から抜けない構造となっている。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

筒状をなす側壁部と、この側壁部の開放された上端部に回動可能に設けられることにより開放された上端を開閉する蓋部とを備え、この蓋部の先端と側壁部の上端部との何れか一方に差し込み片が設けられ、何れか他方にこの差し込み片が差し込まれるスリットが設けられ、このスリットに上記の差し込み片を差し込むことによって上記の蓋部の開きを防止したカートンにおいて、

上記の差し込み片は、首部と、この首部の先端に設けられた頭部とを備え、この頭部には左右方向に突出するフックが形成され、このフックよりも先端側に向かうに従って差し込み片の横幅が小さくなるものであり、

上記のスリットが設けられた側壁部と上記の差し込み片との少なくとも何れか一方には弱め線が形成され、この弱め線の破断に要する力は上記のフックが抜ける力よりも小さく設定され、

この弱め線が破断されなければ、上記の差し込み片が上記のスリットから抜けないものであることを特徴とする再封鎖不能なカートン。

【請求項 2】

上記の開放された側壁部の上端部から上方にフラップが折り目線を介して延設され、このフラップが上記の蓋部の内側に折り込まれるものであり、

上記の差し込み片が折り目線を介して上記の蓋部の先端から延設され、この蓋部により上端部を閉ざした状態で上記のスリットに差し込み片を挿入するものであり、

このスリットは主スリットと補助スリットとを備え、

上記の側壁部の上端部と上記のフラップとの間の折り目線に沿って上記の主スリットが形成され、この主スリットの両端から下方且つ左右外方向に向けて上記の補助スリットが側壁部に形成され、

この主スリットは、上記の差し込み片の首部の横幅よりも長く、上記の頭部の先端部分の横幅よりも長く、且つ、上記の頭部の最大横幅よりも短いものであり、

上記の補助スリット間の最大長さは、上記の頭部の最大横幅以上であり、

上記の補助スリットに対して連続的に上記の弱め線が下方に向けて形成されたものであり、

主スリットを下方に引くことによって、上記の弱め線が破れて、差し込み片をスリットから抜くことができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の再封鎖不能なカートン。

【請求項 3】

上記の蓋部先端から折り目線を介してフラップが延設され、このフラップが上記の側壁部の内面に沿って上端から挿入されるものであり、

上記の差し込み片が折り目線と切り目線とを介して上記の側壁部の上部に形成され、

この差し込み片は、下端が折り目線を介して上記の側壁部と連設され、左右両側が切れ目線を介して上記の側壁部と区画され、さらに側壁部の上方に上記のフックが延設されたものであり、

この差し込み片は、上記の蓋部により上端部を閉ざして上記のフラップが上記の側壁部の内面に沿わされた状態で上記のスリットに差し込み片を後方に向けて挿入するものであり、

このスリットは主スリットと補助スリットとを備え、

上記の蓋部とフラップとの間の折り目線に沿って上記の主スリットが形成され、この主スリットの両端から後方且つ左右外方向に向けて上記の補助スリットが蓋部に形成され、

この主スリットは、上記の差し込み片の首部の横幅よりも長く、上記の頭部の先端部分の横幅よりも長く、且つ、上記の頭部の最大横幅よりも短いものであり、

上記の補助スリット間の最大長さは、上記の頭部の最大横幅以上であり、

上記の補助スリットに対して連続的に上記の弱め線が後方に向けて形成されたものであり、

主スリットを後方に引くことによって、上記の弱め線が破れて、差し込み片をスリットか

10

20

30

40

50

ら抜くことができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の再封鎖不能なカートン。

【請求項 4】

上記の主スリットの長さより上記の頭部の最大横幅が 5mm 以上長いものであり、
上記の補助スリットが斜線であり、この補助スリットに連続的に形成された上記の弱め線
が、上記の補助スリットの斜線と平行な斜線部分を有するものであることを特徴とする請
求項 2 又は 3 記載の再封鎖不能なカートン。

【請求項 5】

上記の開放された上端部から上方にフラップが折り目線を介して延設され、このフラップ
が上記の蓋部の内側に折り込まれるものであり、

上記の差し込み片が折り目線を介して上記の蓋部の先端から延設され、この蓋部により上
端部を閉じた状態で上記のスリットに差し込み片を挿入するものであり、

このスリットは主スリットと補助スリットとを備え、

上記の折り目線に沿って上記の主スリットが形成され、この主スリットの両端から下方且
つ左右外方向に向けて上記の補助スリットが側壁部に形成され、

この主スリットは、上記の差し込み片の首部の横幅よりも長く、上記の頭部の先端部分の
横幅よりも長く、且つ、上記の頭部の最大横幅よりも短いものであり、

上記の補助スリット間の最大長さは、上記のフック間の長さ以上であり、

上記の差し込み片と蓋部との間の折り目線がミシン目とされることにより前記の弱め線と
されたものであり、

蓋部を持ち上げることによって、上記の弱め線が破れて、差し込み片をスリットから抜く
ことができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の再封鎖不能なカートン。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本願考案は、再封鎖不能なカートンに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来より、カートン、特に市販製品の包装用箱にあっては、流通過程や展示販売時にお
ける商品へのいたづらを防止すると共に開封が行われた場合にはこれを確認できるよう
するために、蓋と本体との間にシールを貼り付けている例が散見される。ところが、このシ
ール代金とこれを貼り付ける人件費が包装用箱の原価を上昇させることとなっている。包
装用箱については、可能な限り自動化が進められているものの、小さなシールを一枚一枚
貼り付ける作業は自動化が困難であり、人手に頼っているのが現状であり、機械化する場
合には大きな設備投資が必要となる。

他方、特許文献 1 に示すように、開封作業を容易にするために、弱め線を容器に形成す
ることが提案されている。ところが、このものにあっては、開封を容易にするために改良
されているもので、弱め線を破らなくても開封は可能であるため、再封鎖防止のためには
、従前と同様シールを貼り付けなければならない。

【0003】

【特許文献 1】特開 2003-327242 号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

本願考案の目的は、蓋と本体との間にシールを貼り付けなくとも、カートンだけで再封
鎖の不可能な構造を提供して、一度開けると再度元のように封鎖できないカートンを安
価に製造することを可能にすることにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

そこで本願の第 1 の考案は、筒状をなす側壁部と、この側壁部の開放された上端部に回
動可能に設けられることにより開放された上端を開閉する蓋部とを備え、この蓋部の先端

10

20

30

40

50

と側壁部の上端部との何れか一方に差し込み片が設けられ、何れか他方にこの差し込み片が差し込まれるスリットが設けられ、このスリットに上記の差し込み片を差し込むことによって上記の蓋部の開きを防止したカートンにおいて、

上記の差し込み片は、首部と、この首部の先端に設けられた頭部とを備え、この頭部には左右方向に突出するフックが形成され、このフックよりも先端側に向かうに従って差し込み片の横幅が小さくなるものであり、

上記のスリットが設けられた側壁部と上記の差し込み片との少なくとも何れか一方には弱め線が形成され、この弱め線の破断に要する力は上記のフックが抜ける力よりも小さく設定され、

この弱め線が破断されなければ、上記の差し込み片が上記のスリットから抜けないものであることを特徴とする再封鎖不能なカートンを提供する。

本願の請求項 2 に係る考案は、上記の開放された側壁部の上端部から上方にフラップが折り目線を介して延設され、このフラップが上記の蓋部の内側に折り込まれるものであり、

上記の差し込み片が折り目線を介して上記の蓋部の先端から延設され、この蓋部により上端部を閉じた状態で上記のスリットに差し込み片を挿入するものであり、

このスリットは主スリットと補助スリットとを備え、

上記の側壁部の上端部と上記のフラップとの間の折り目線に沿って上記の主スリットが形成され、この主スリットの両端から下方且つ左右外方向に向けて上記の補助スリットが側壁部に形成され、

この主スリットは、上記の差し込み片の首部の横幅よりも長く、上記の頭部の先端部分の横幅よりも長く、且つ、上記の頭部の最大横幅よりも短いものであり、

上記の補助スリット間の最大長さは、上記の頭部の最大横幅以上であり、

上記の補助スリットに対して連続的に上記の弱め線が下方に向けて形成されたものであり、

主スリットを下方に引くことによって、上記の弱め線が破れて、差し込み片をスリットから抜くことができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の再封鎖不能なカートンを提供する。

本願の請求項 3 に係る考案は、上記の蓋部先端から折り目線を介してフラップが延設され、このフラップが上記の側壁部の内面に沿って上端から挿入されるものであり、

上記の差し込み片が折り目線と切り目線とを介して上記の側壁部の上部に形成され、

この差し込み片は、下端が折り目線を介して上記の側壁部と連設され、左右両側が切れ目線を介して上記の側壁部と区画され、さらに側壁部の上方に上記のフックが延設されたものであり、

この差し込み片は、上記の蓋部により上端部を閉ざして上記のフラップが上記の側壁部の内面に沿わされた状態で上記のスリットに差し込み片を後方に向けて挿入するものであり、

このスリットは主スリットと補助スリットとを備え、

上記の蓋部とフラップとの間の折り目線に沿って上記の主スリットが形成され、この主スリットの両端から後方且つ左右外方向に向けて上記の補助スリットが蓋部に形成され、

この主スリットは、上記の差し込み片の首部の横幅よりも長く、上記の頭部の先端部分の横幅よりも長く、且つ、上記の頭部の最大横幅よりも短いものであり、

上記の補助スリット間の最大長さは、上記の頭部の最大横幅以上であり、

上記の補助スリットに対して連続的に上記の弱め線が後方に向けて形成されたものであり、

主スリットを後方に引くことによって、上記の弱め線が破れて、差し込み片をスリットから抜くことができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の再封鎖不能なカートンを提供する。

本願の請求項 4 に係る考案は、上記の主スリットの長さより上記の頭部の最大横幅が 5 mm 以上長いものであり、

10

20

30

40

50

上記の補助スリットが斜線であり、この補助スリットに連続的に形成された上記の弱め線が、上記の補助スリットの斜線と平行な斜線部分を有するものであることを特徴とする請求項 2 又は 3 記載の再封鎖不能なカートンを提供する。

本願の請求項 5 に係る考案は、上記の開放された上端部から上方にフラップが折り目線を介して延設され、このフラップが上記の蓋部の内側に折り込まれるものであり、上記の差し込み片が折り目線を介して上記の蓋部の先端から延設され、この蓋部により上端部を閉ざした状態で上記のスリットに差し込み片を挿入するものであり、このスリットは主スリットと補助スリットとを備え、上記の折り目線に沿って上記の主スリットが形成され、この主スリットの両端から下方且つ左右外方向に向けて上記の補助スリットが側壁部に形成され、この主スリットは、上記の差し込み片の首部の横幅よりも長く、上記の頭部の先端部分の横幅よりも長く、且つ、上記の頭部の最大横幅よりも短いものであり、上記の補助スリット間の最大長さは、上記のフック間の長さ以上であり、上記の差し込み片と蓋部との間の折り目線がミシン目とされることにより前記の弱め線とされたものであり、蓋部を持ち上げることによって、上記の弱め線が破れて、差し込み片をスリットから抜くことができるようにしたことを特徴とする請求項 1 記載の再封鎖不能なカートンを提供する。

なお、本願の各考案において、前後上下左右は相対的な位置関係を示すに止まり、絶対的な位置を特定したものではない。

【考案の効果】

【0006】

本願考案は、この弱め線が破断されなければ、差し込み片が上記のスリットから抜けないものであるため、開封するには弱め線を破断する必要がある。よって、一旦開封してしまうと、再度、開封前の封鎖状態に戻すことは不可能なカートンを提供することができたものであり、開封の有無を確認することができ、ひいては商品へのいたずらなどの発生を防止することができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0007】

以下、図面に基づき本願考案の実施の形態を説明する。

図 1 は第 1 の実施の形態に係るカートンの要部斜視図であり、図 2 は同開封状態の要部斜視図であり、図 3 は同展開図である。

【0008】

この実施の形態に係るカートンは、断面 4 角形の筒状をなす側壁部 11 と、側壁部 11 の開放端である上端部に折り目線を介して延設されることによって回動可能に設けられた蓋部 31 とを備える。ここで、カートンとは、主として紙製の箱を意味するが、紙と合成樹脂との複合材料製や、合成樹脂製の箱体を含むものである。

【0009】

側壁部 11 は、それぞれ折り目線を介して連設された正面側壁 13、背面側壁 14、右側壁 15、左側壁 16 とを備え、背面側壁 14 の上端からは折り目線を介して前述の蓋部 31 が折り目線を介して延設されている。正面側壁 13 からは前フラップ 17 が、右側壁 15 からは右フラップ 18 が、左側壁 16 からは左フラップ 19 が、それぞれ折り目線を介して延設されており、これらは上記の蓋部 31 の内側に折り込まれる。正面側壁 13、背面側壁 14、右側壁 15、左側壁 16 の下端からは、それぞれ折り目線を介して底前フラップ 21、底後フラップ 22、底右フラップ 23、底左フラップ 24 が形成されており、正面側壁 13 の左辺から糊代片 25 が延設されている。この糊代片 25 をこれらの左側壁 16 に糊付けして、全体を筒状を形成すると共に、底前フラップ 21、底後フラップ 22、底右フラップ 23、底左フラップ 24 を組み合わせて底部を形成する。

【0010】

蓋部 31 の先端から、差し込み片 32 が折り目線を介して延設されている。

この差し込み片 3 2 は、蓋部 3 1 先端から伸びる首部 3 3 と、この首部 3 3 の先端に設けられた頭部 3 4 とを備える。この頭部 3 4 には左右方向に突出するフック 3 5 が形成されたものであり、首部 3 3 に比してフック 3 5 の分だけ左右幅が大きくなっている。このフック 3 5 は、次に述べるスリット 4 1 に挿入されて引っ掛かることによって、蓋部 3 1 の開放を防止するものであり、その形状は真横に伸びるものでもよく、斜め下方又は上方に伸びるものでもよい。頭部 3 4 は、フック 3 5 よりも先端に進むに従って差し込み片の横幅が小さくなっており、スリット 4 1 への挿入を容易にしている。

【0011】

この差し込み片 3 2 は、蓋部 3 1 により上端部を閉ざした状態でスリット 4 1 に差し込まれる。このスリット 4 1 は、正面側壁 1 3 と前フラップ 1 7 との間の折り目線上に形成された主スリット 4 2 と、その両端に形成された補助スリット 4 3 とを備える。補助スリット 4 3 は、主スリット 4 2 の両端から下方且つ左右外方向に向けて正面側壁 1 3 上に形成されている。主スリット 4 2 の長さは、上記の首部 3 3 の横幅よりも長く、且つ、上記の頭部 3 4 の横幅（右のフック 3 5 と左のフック 3 5 との間の距離）よりも短い。この主スリット 4 2 と頭部 3 4 の横幅との差は、5 mm 以上とすることが強固な固定のために望ましい。また、上記の左右の補助スリット 4 3 間の最大長さは、頭部 3 4 の横幅と等しいか、これより長いものとされている。この主スリット 4 2 は、正面側壁 1 3 と前フラップ 1 7 の間の折り目線に形成されており、さらに正面側壁 1 3 に補助スリット 4 3 が斜めにハの字状に広がるように形成されている。従って、差し込み片 3 2 を挿入する時には、主スリット 4 2 の長さよりも短く設定された頭部 3 4 の先端から、蓋部 3 1 を主スリット 4 2 へ挿入する。さらに深く挿入すると、フック 3 5 の部分が主スリット 4 2 の長さを超えるが、正面側壁 1 3 に斜めに形成された補助スリット 4 3 が、スムーズにフック 3 5 を受け入れて、差し込み片 3 2 がスリット 4 1 に完全に挿入される。詳しくは、補助スリット 4 3 と折り目線との間の略三角形の部分（以下三角部分 4 4 という）が、頭部 3 4 （フック 3 5）によって押さえつけられてその裏面側（内側）に入るようにして、スリット 4 1 に差し込み片 3 2 が挿入される。他方、これを抜こうとしても、紙の弾性によって三角部分 4 4 は元の状態に戻っているため、三角部分 4 4 はフック 3 5 の表面側（外側）に入ることとなり、これに引っ掛かって、抜けなくなる。

【0012】

この補助スリット 4 3 の下方には、これに連続して弱め線 4 6 が形成されている。この弱め線 4 6 は、上下に略垂直に伸びる主線 4 7 と、その上端に連続して形成された傾斜線 4 8 とを備えるものである。補助スリット 4 3 の下端は、傾斜線 4 8 と略同じ高さに形成されており、補助スリット 4 3 と傾斜線 4 8 との間の紙が引き裂く力によって破られながら、補助スリット 4 3 から弱め線 4 6 への破断が進む。即ち、蓋を開く際には、主スリット 4 2 に指先を掛けて、下方に引く。これによって、補助スリット 4 3 から弱め線 4 6 へと破断が進み、左右の弱め線 4 6 に挟まれた開放片 4 9 が前に降ろされて、差し込み片 3 2 を抜くために十分な開口が正面側壁 1 3 に形成されることとなる。この弱め線 4 6 の破断に要する力は上記のフック 3 5 がスリット 4 1 から抜ける力よりも小さく設定されている。特に、頭部 3 4 の最大横幅は、主スリット 4 2 の長さよりも 5 mm 以上長いため、十分な引っ掛かりの強度が確保されており、先に弱め線 4 6 が破断されなければ、差し込み片 3 2 がスリット 4 1 から抜けることはない。

【0013】

これによって、弱め線を破らずに開封することは不可能となり、開封した痕跡が残ることになる。よって、一旦開封してしまうと、再度、開封前の封鎖状態に戻すことは不可能なカートンを提供することができたものであり、開封の有無を確認することができ、ひいては商品へのいたずらなどの発生を防止することができる。

【0014】

図 4 は第 2 の実施の形態に係るカートンの要部斜視図であり、図 5 は同開封状態の要部斜視図であり、図 6 は同展開図である。

【0015】

先の実施の形態では、スリット４１を正面側壁１３に形成し、このスリット４１に挿入される差し込み片３２を蓋部３１に形成したものであるが、この例では、先の例とは逆に、スリット４１を蓋部３１に設け、差し込み片３２を正面側壁１３に形成したものである。

【００１６】

具体的には、蓋部３１の先端に折り目線を介して先端フラップ３０を設ける。この先端フラップ３０は、上記の正面側壁１３の内面に沿って上端から挿入されるものであり、この折り目線に主スリット４２が形成され、その左右両端に補助スリット４３が蓋部３１上に形成される。この補助スリット４３の後方には、主線４７と傾斜線４８とからなる弱め線４６が形成され、蓋部３１におけるスリット４１と弱め線４６とによって区画された部分が開放片４９となる。他方、正面側壁１３の上端には、差し込み片３２が形成されている。この差し込み片３２は、首部３３と頭部３４とを備え、頭部３４にはフック３５が形成されている点は先の例と同様であるが、スリット４１への挿入を容易にするために、下端が折り目線３６を介して上記の正面側壁１３と連設され、左右両側が切り目線３７を介して正面側壁１３と区画されている。

【００１７】

この差し込み片３２は、蓋部３１により上端部を閉ざしてスリット４１に後方へ向けて差し込むもので、差し込まれた差し込み片３２は蓋部３１の内面（下面）に沿って挿入される。開封は、主スリット４２に指をかけて、後方に引っ張る。その他の点は先の例と同様であるため、説明を省略する。

【００１８】

図７は第３の実施形態に係るカートの要部斜視図であり、図８は同展開図である。

この実施の形態では、第１の実施の形態と同様、スリット４１を正面側壁１３に形成し、このスリット４１に挿入される差し込み片３２を蓋部３１に形成したものであるが、弱め線４６を蓋部３１と首部３３との間に形成したものである。この例では弱め線４６を首部３３の基部に設けたため、開封するには、弱め線４６を破断して、首部３３を蓋部３１から切りはずすことになる。なお、図示は省略するが、第２の実施の形態において、差し込み片３２の基部に弱め線４６を設けるようにすることもできる。以上の実施の形態の他、本願考案は実用新案登録請求の範囲に記載の範囲において、種々変更して実施することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１９】

【図１】第１の実施の形態に係るカートの要部斜視図である。

【図２】同開封状態の要部斜視図である。

【図３】同展開図である。

【図４】第２の実施の形態に係るカートの要部斜視図である。

【図５】同開封状態の要部斜視図である。

【図６】同展開図である。

【図７】第３の実施の形態に係るカートの要部斜視図である。

【図８】同展開図である。

【符号の説明】

【００２０】

- １１ 側壁部
- １３ 正面側壁
- １４ 背面側壁
- １５ 右側壁
- １６ 左側壁
- １７ 前フラップ
- １８ 右フラップ
- １９ 左フラップ

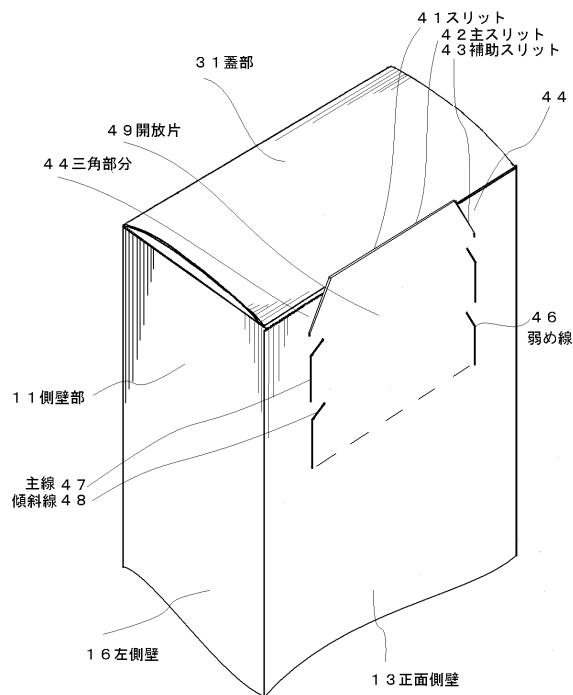
- 2 1 底前フラップ
- 2 2 底後フラップ
- 2 3 底右フラップ
- 2 4 底左フラップ
- 2 5 糊代片
- 3 0 先端フラップ
- 3 1 蓋部
- 3 2 差し込み片
- 3 3 首部
- 3 4 頭部
- 3 5 フック
- 3 6 折り目線
- 3 7 切り目線
- 4 1 スリット
- 4 2 主スリット
- 4 3 補助スリット
- 4 4 三角部分
- 4 6 弱め線
- 4 7 主線
- 4 8 傾斜線
- 4 9 開放片

10

20

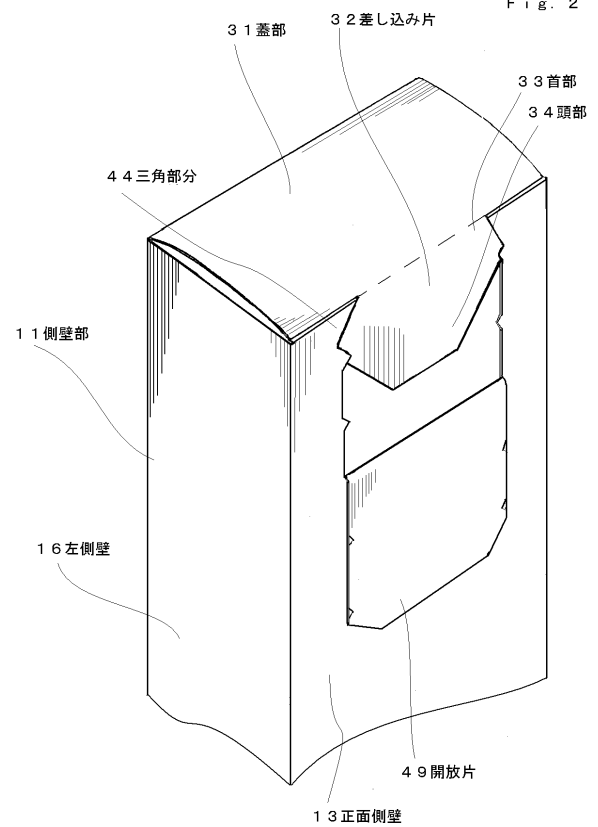
【図 1】

Fig. 1

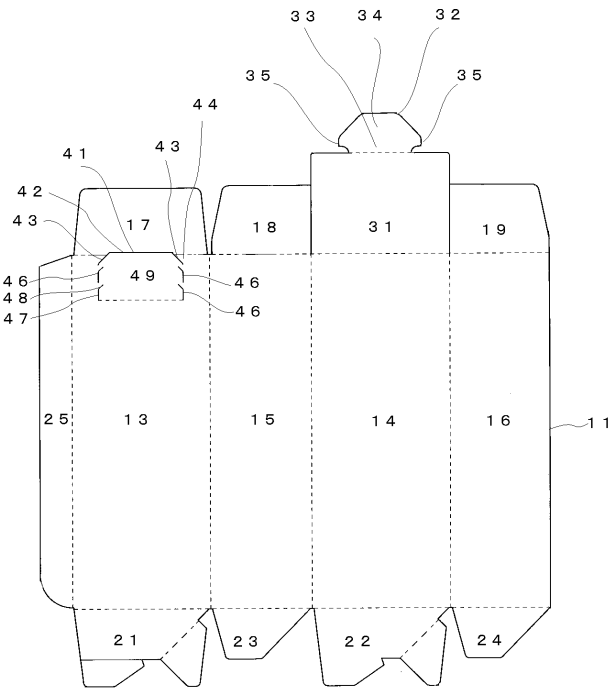


【図 2】

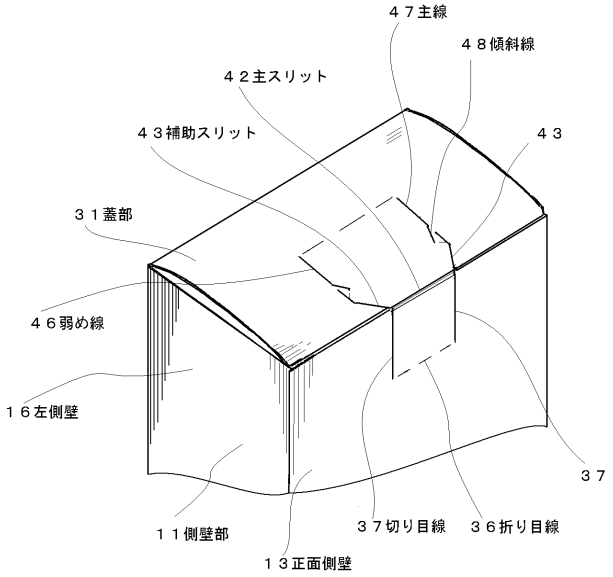
Fig. 2



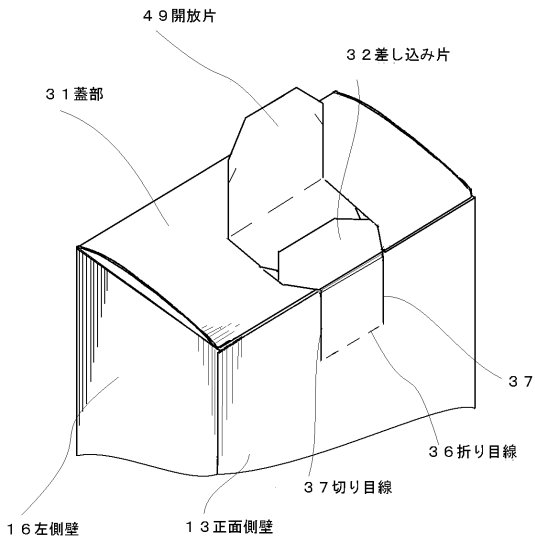
【図 3】



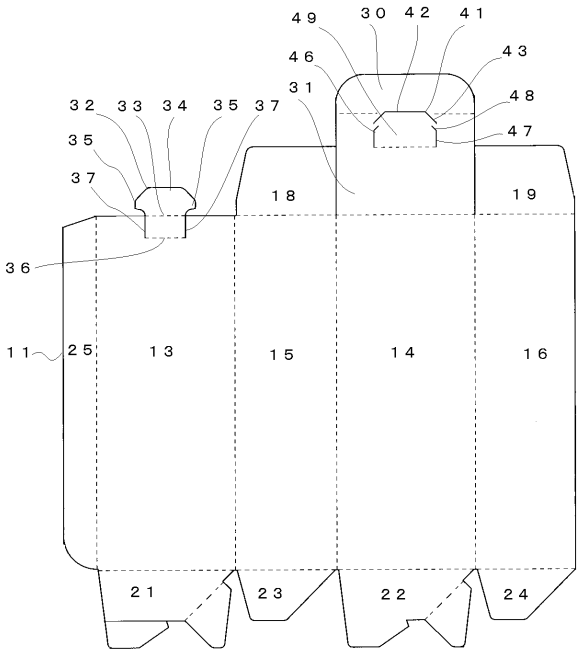
【図 4】



【図 5】

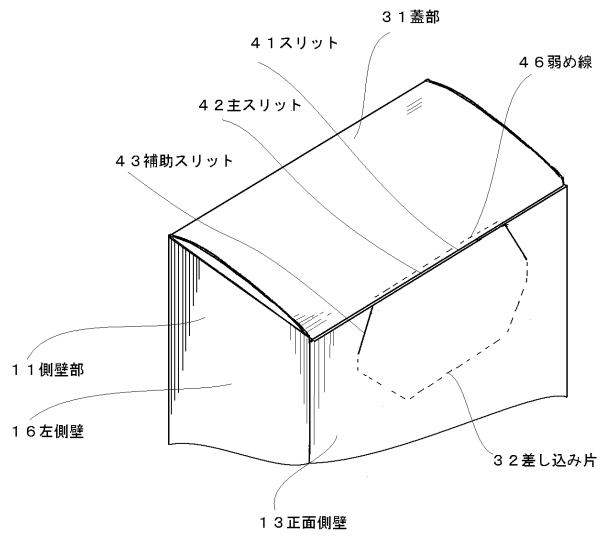


【図 6】



【図 7】

Fig. 7



【図 8】

Fig. 8

